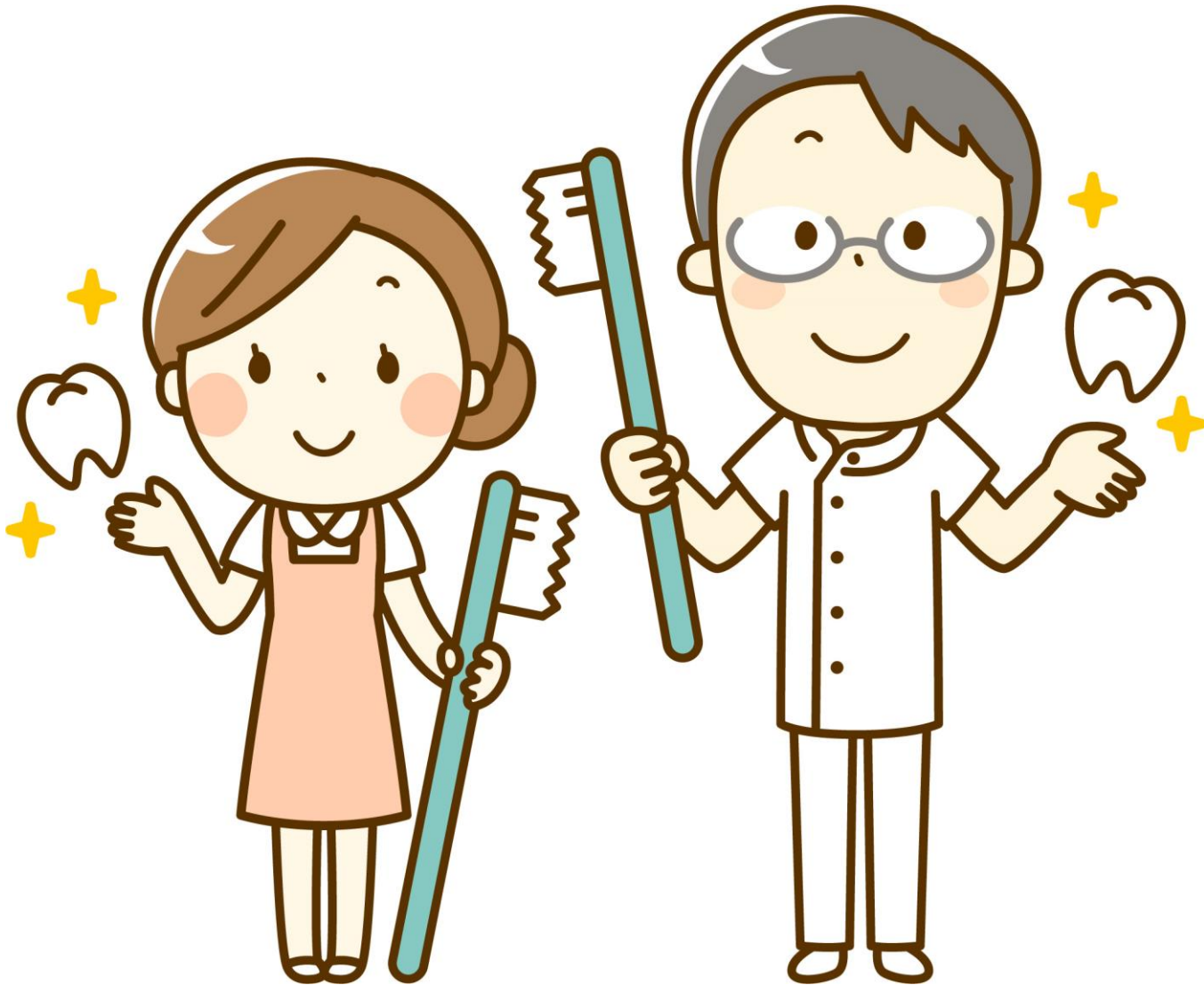


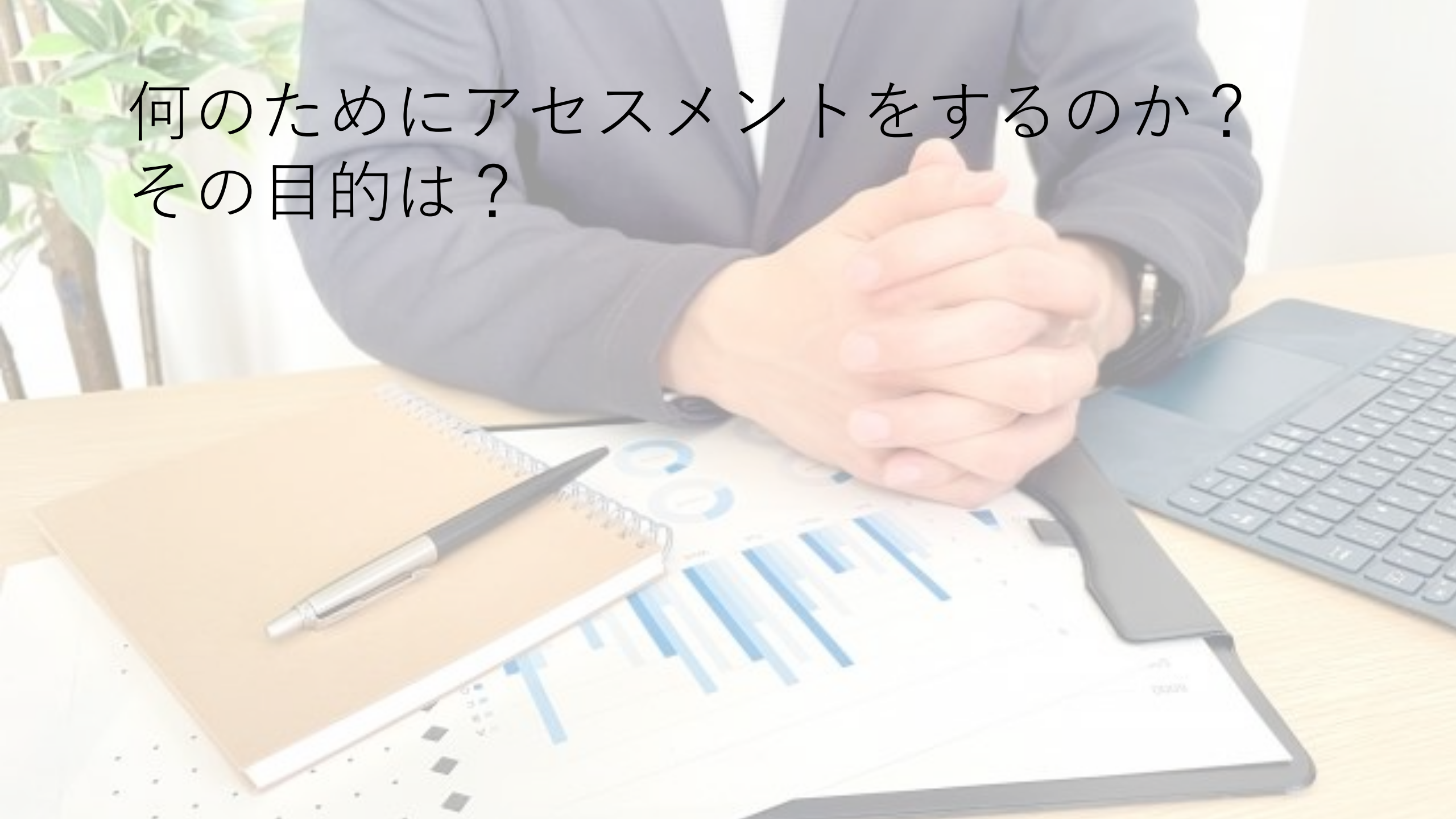
アセスメントのその先にあるもの



(一社) 滋賀県歯科衛生士会

エムデンタルオフィス 所属
特養 千松の郷 所属
歯科衛生士
木下 幸子

何のためにアセスメントをするのか？
その目的は？



2. 自立支援・重度化防止に向けた対応

■ 高齢者の自立支援・重度化防止という制度の趣旨に沿い、多職種連携やデータの活用を推進

リハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養の一体的取組等

※各事項は主なもの

- リハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養を一体的に推進し、自立支援・重度化防止を効果的に進める観点から、**介護老人保健施設・介護医療院・介護老人福祉施設等**の関係加算について、新たな区分を設ける。また、**通所リハビリテーション**におけるリハビリテーションマネジメント加算につい

2. 自立支援・重度化防止に向けた対応

■ 高齢者の自立支援・重度化防止という制度の趣旨に沿い、多職種連携やデータの活用を推進

リハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養の一体的取組等

※各事項は主なもの

- リハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養を一体的に推進し、自立支援・重度化防止を効果的に進める観点から、**介護老人保健施設・介護医療院・介護老人福祉施設等**の関係加算について、新たな区分を設ける。また、**通所リハビリテーション**におけるリハビリテーションマネジメント加算について、新たな区分を設ける。
- 大規模型事業所であってもリハビリテーションマネジメントを実施する体制等が充実している事業所を評価する観点から、**通所リハビリテーション**の事業所規模別の基本報酬について見直しを行う。
- 居宅療養管理指導費**について、通所サービス利用者に対する管理栄養士による栄養食事指導及び歯科衛生士等による歯科衛生指導を充実させる観点から、算定対象を通院又は通所が困難な者から通院困難な者に見直す。
- 訪問介護等**において、職員による利用者の口腔の状態の確認によって、**歯科専門職による適切な口腔管理の実施につなげる観点から、事業所と歯科専門職の連携の下、介護職員による口腔衛生状態及び口腔機能の評価の実施並びに利用者の同意もとの歯科医療機関及び介護支援専門員への情報提供を評価する新たな加算を設ける。**
- 介護保険施設から、居宅、他の介護保険施設、医療機関等に退所する者の栄養管理に関する情報連携が切れ目無く行われるようにする観点から、**介護保険施設**の管理栄養士が、介護保険施設の入所者等の栄養管理に関する情報について、他の介護保険施設や医療機関等に文書等で提供することを評価する新たな加算を設ける。

- 科学的介護推進体制加算・自立支援促進加算について、質の高い情報収集・分析を可能とし、科学的介護を推進する観点から、LIFEの入力項目の定義の明確化や入力負担の軽減等を行う。
- ADL維持等加算、排せつ支援加算、褥瘡マネジメント加算（介護医療院は褥瘡対策指導管理）について、アウトカム評価を充実する観点から見直しを行う。

リハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養の一体的取組の推進

告示改正

- リハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養の一体的取組を推進し、自立支援・重度化防止を効果的に進める観点から、通所リハビリテーションにおけるリハビリテーションマネジメント加算について、新たな区分を設ける。
- また、介護老人保健施設・介護医療院・介護老人福祉施設等の関係加算について、新たな区分を設ける。

通所リハビリテーション、介護老人保健施設、介護医療院、介護老人福祉施設等

【単位数】（通所リハビリテーションの場合）

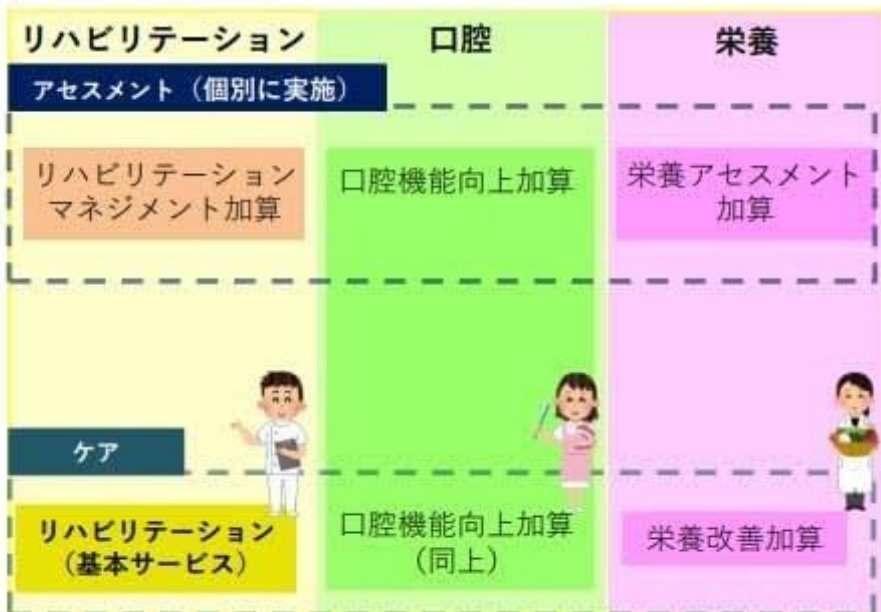
リハビリテーションマネジメント加算(イ)	同意日の属する月から6月以内	560単位/月、6月超	240単位/月
リハビリテーションマネジメント加算(ロ)	同意日の属する月から6月以内	593単位/月、6月超	273単位/月
リハビリテーションマネジメント加算(ハ) (新設)	同意日の属する月から6月以内	793単位/月、6月超	473単位/月

※ 事業所の医師が利用者等に説明し、同意を得た場合、上記に270単位を加算

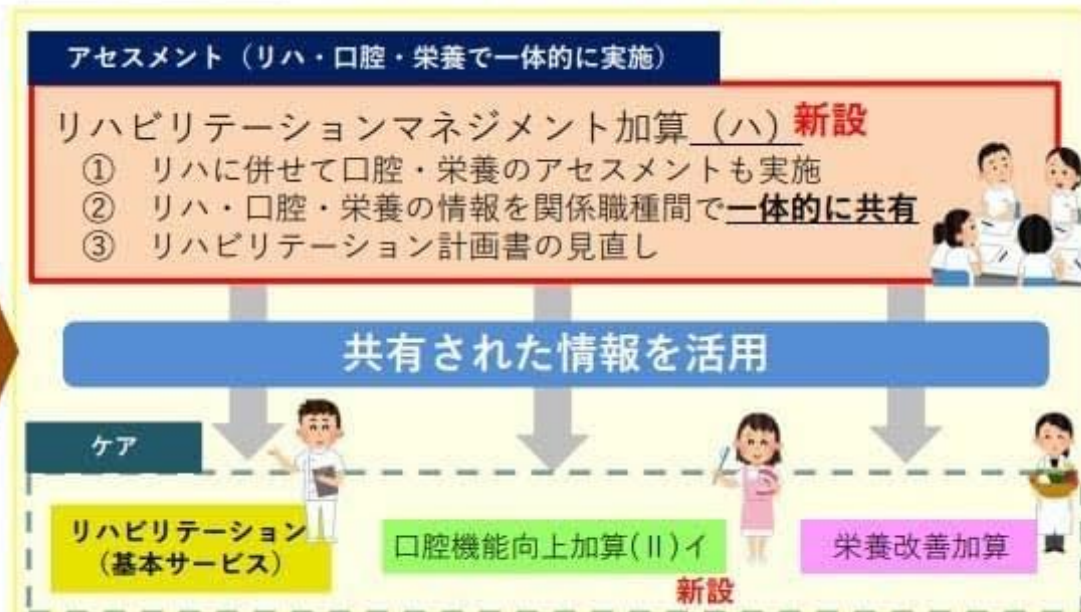
【ハの算定要件】

- ア 口腔アセスメント及び栄養アセスメントを行っていること。
- イ リハビリテーション計画等の内容について、リハビリテーション・口腔・栄養の情報を関係職種の間で一体的に共有すること。その際、必要に応じて LIFE に提出した情報を活用していること。
- ウ 共有した情報を踏まえ、リハビリテーション計画について必要な見直しを行い、見直しの内容について関係職種に対し共有していること。

現行 (一体的に実施した場合の評価なし)



改定後 (一体的に実施した場合の評価の新設)



2. (1) ⑱ 介護保険施設における口腔衛生管理の強化

概要

【介護老人福祉施設、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護、介護老人保健施設、介護医療院】

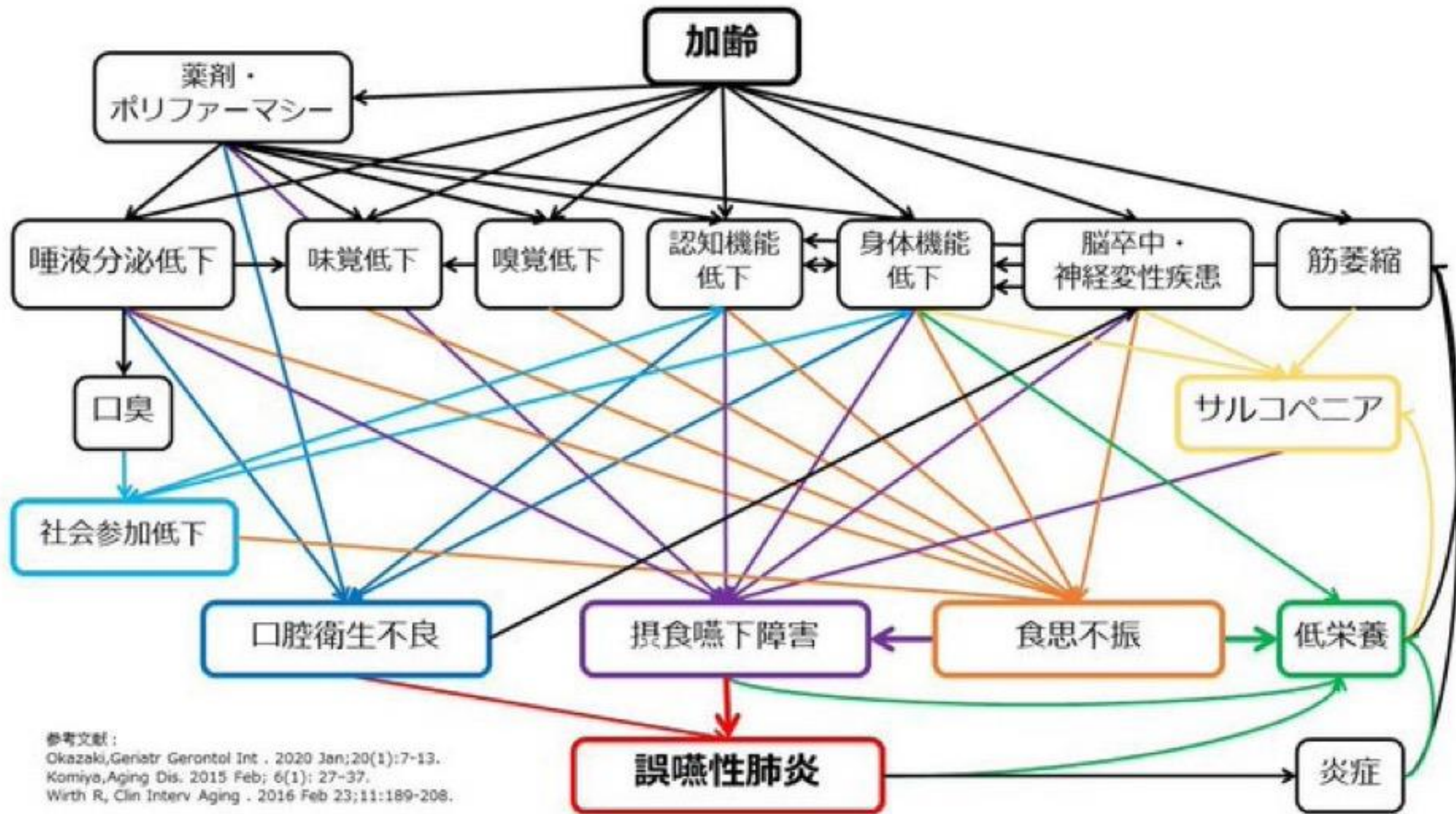
- 介護保険施設において、事業所の職員による適切な口腔管理等の実施と、歯科専門職による適切な口腔管理につなげる観点から、事業者を利用者の入所時及び入所後の定期的な口腔衛生状態・口腔機能の評価の実施を義務付ける。【通知改正】

算定要件等

- 施設の従業者又は歯科医師若しくは歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が施設入所時及び入所後の定期的な口腔の健康状態の評価を実施すること。
- 技術的助言及び指導又は口腔の健康状態の評価を行う歯科医師若しくは歯科医師の指示を受けた歯科衛生士においては、当該施設との連携について、実施事項等を文書等で取り決めを行うこと。

<運営基準等における対応>





参考文献：
 Okazaki, Geriatr Gerontol Int . 2020 Jan; 20(1):7-13.
 Komiya, Aging Dis. 2015 Feb; 6(1): 27-37.
 Wirth R, Clin Interv Aging . 2016 Feb 23; 11:189-208.

誤嚥性肺炎

炎症
長期臥床

嚥下障害

加齢

サルコペニア

低栄養
筋萎縮

	チェック項目	該当は ○印	メモ (部位・気づいたこと等)	多職種連携による援助の方向性と内容	
1	最近1年間に、(誤嚥性)肺炎が原因で入院したことがある。			<div data-bbox="1044 135 1490 207" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;"> ※毎日の口腔ケア </div> <ul style="list-style-type: none"> ◆口腔機能向上体操 (飲み込む機能などの低下を予防する) ◆口腔ケア (嚥下反射を高める、口腔内細菌による感染の予防) 	<div data-bbox="1516 121 1921 249" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;"> ※定期的な口腔管理 (歯科健診を推奨) </div> <p>◎かかりつけ歯科に定期的に口腔内の状態を見てもらえるように勧めていきましょう。</p> <p>◎また、日常的な口腔ケアや口腔機能向上体操など、何らかの援助を行っても症状が気になる(悪くなっていく)場合や、日常生活に不具合が生じる場合には、本人・家族と相談し、早めに歯科医に相談しましょう。</p>
2	最近3か月間に、食べにくくて食事にかかる時間が長くなった。				
3	お茶や汁物等でむせることがある。または、飲み込みにくい。				
4	口の中に食べ残しがある。				
5	食べかす・プラーク(歯垢)がある。または、入れ歯が汚れている。				
6	歯みがき時などに出血する。			<ul style="list-style-type: none"> ◆口腔ケア (プラークや舌苔を除去し、改善するか様子を見る) 	
7	舌苔(舌の汚れ)が付着している。			<ul style="list-style-type: none"> ◆入れ歯の清掃 (入れ歯を外して清掃する) 	
8	口臭がある。				
9	日中、口の渇きが気になる。			<ul style="list-style-type: none"> ◆唾液腺マッサージ ◆口腔ケア (粘膜ケアを行い、保湿剤利用も検討する) 	
10	歯の痛みがある。 (歯の痛みを訴える)			<div data-bbox="1146 1292 1860 1392" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; display: inline-block;"> ※歯科医療機関につなげる </div>	

口腔の機能低下を起こ
しているかも・・・



舌苔がたくさんある人は
嚥下障害の症状が出ているかも！



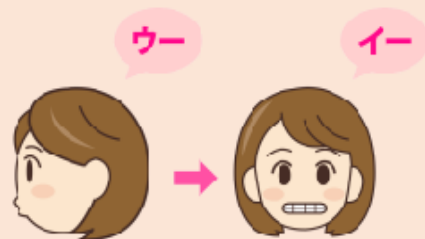
図1 流動食による舌苔の増加
4週間流動食を摂取すると、舌苔が増加した

- ・舌の動きが悪い
- ・舌圧が弱い
- ・ほとんど咀嚼せず丸のみ

① お口・舌の動きをスムーズにする体操

効果 唇やほほ、お口周りや舌の筋力をアップすることで、お口の機能が高まり、唾液がよく出るようになり、舌がなめらかに動いて食べ物を飲み込みやすくなります。お顔の表情もイキイキしてきます。

(唇を中心とした) 口の体操



①口をすぼめる。②「イー」と横に開く。

(唇と) ほほの体操



ほほを膨らませた後、すぼめるといふ動きを数回する。(水はなくてもOK)

舌の体操 (舌圧訓練)



- ①舌を左のほほの内側に強く押しつける。
- ②自分の指で、口の中の舌の先を、ほほの上から押さえる。
- ③それに抵抗するように、舌をほほの内側に、ゆっくり10回押しつける。
- ④右のほほでも同じこと繰り返す。

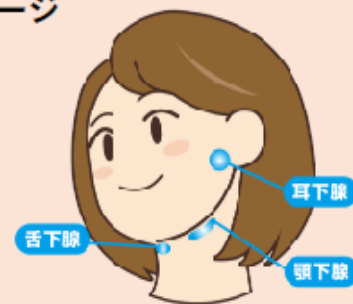
パタカラ体操



- ①「パ」…唇をはじくように
- ②「タ」…舌先を上の前歯の裏につけるように
- ③「カ」…舌の奥を上顎の奥につけるように
- ④「ラ」…舌をまるめるように

各発音 8回を2セット行う。

唾液腺マッサージ



1

耳下腺マッサージ



指数本を耳の前(上の奥歯あたり)に当て、10回ほど円を描くようにマッサージしていく。

2

顎下腺マッサージ



顎のラインの内側のくぼみ部分 3~4か所を順に押していく。目安は各ポイントを5回ほど。

3

舌下腺マッサージ



顎の中心あたりの柔らかい部分に両手の親指を揃えて当て、10回ほど上方向にゆっくり押し当てる。

③ 噛むパワー（咀嚼機能）をつける体操

効果 「食べこぼし」や、食べ物が鼻に流れ込むのを防ぎます。また、唾液が良く出ると、美味しく安全に食べられます。

咀嚼訓練

ガムを噛むことにより噛むために必要な筋肉を鍛えることができます。

★姿勢は正しく！
★左右両側で均等に噛みましょう



1日2回（朝と夜）、2分間はリズムを決めて、3分間は自由に、計5分間ガムを噛む。

- ①唇を閉じて、しっかりと噛む。
- ②ガムは1か所で噛まず、左右両側で均等に噛む。
- ③姿勢を正して噛む。

④ 滑舌（口唇・舌の巧緻性）をよくする体操

効果 口の動きをよくすることで、明瞭な発音につながり、表情が豊かになります。

早口言葉

口を大きく動かしながら3回続けて言ってみましょう！



レベル1

なまむぎ なまごめ なまたまご
（生米 生米 生卵）

レベル2

隣の客はよく柿食う客だ

レベル3

あおまきがみ あかまきがみ きまきがみ
（青巻紙 赤巻紙 黄巻紙）

レベル4

隣の竹垣に竹立てかけたのは
竹立てかけたかったので 竹立てかけた

⑤ 舌のパワーをつける体操

効果 「誤嚥」や「むせ」などの症状改善につながります。

舌トレーニング

①舌で下顎の先を触るつもりで伸ばす。



②舌で鼻のあたを触るつもりで伸ばす。



③舌を左右に伸ばす。



④お口の周りをぐるりと舌を動かす。



⑤スプーンなどを使って、舌に当てて押し、その方に抵抗するように舌を上げます（右から・左から・前から と同様に行います）。

② 飲み込むパワー（嚥下機能）をつける体操

効果 飲み込みに関連する筋力をアップすることで、食事中の「むせ」などの症状改善につながります。

開口訓練



1日10秒間×2セット(朝・夕)行ってください

- ① ゆっくり大きく口を開け10秒間保持する。
- ② しっかり口を閉じて10秒間休憩する。
※お口を開くときには、無理せず痛みが出ない程度にしてください。

おでこ体操



- ① 指先を上に向け、手のひらでおでこを押し合うようにする。
- ② おへそをのぞきこみながら、5つ数える。
※首に痛みのある方や高血圧の方は避けましょう。

ペロ出しごっくん体操



ペロを少し出したまま、口を閉じてつばを飲み込む。

ごっくん体操

チェック! 飲み込んで確認



嚥ぼとけに手を当て、ゴクンと飲み込む。
嚥ぼとけが上がることを確認する。
※体操の前に位置をチェックしましょう。

① 嚥ぼとけを上げる



のどに手を当てたまま、顎を少し引く。
ゴクッと飲んで、嚥ぼとけを上げる。

② 上げたまま5秒保つ



嚥ぼとけを上げたまま、5秒保つ。
※5秒が難しければ、できる長さで無理せず行いましょう。

③ 息をしっかりと吐き出す



息を一気に吐き出す。
※お腹からしっかりと吐き切りましょう。

お口を鍛えるために

- 彦根市You Tubeチャンネル

コツコツ続ける金亀体操+（ふらす）3 《お口の体操で笑顔満開編》



	チェック項目	該当は ○印	メモ (部位・気づいたこと等)	多職種連携による援助の方向性と内容
1	最近1年間に、(誤嚥性)肺炎が原因で入院したことがある。			<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;"> ※毎日の口腔ケア </div>
2	最近3か月間に、食べにくくて食事にかかる時間が長くなった。			<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> ◆口腔機能向上体操 (飲み込む機能などの低下を予防する) </div>
3	お茶や汁物等でむせることがある。または、飲み込みにくい。			<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> ◆口腔ケア (嚥下反射を高める、口腔内細菌による感染の予防) </div>
4	口の中に食べ残しがある。			<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> ◆口腔ケア (ブラークや舌苔を除去し、改善するか様子を見る) </div>
5	食べかす・プラーク(歯垢)がある。または、入れ歯が汚れている。			<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> ◆入れ歯の清掃 (入れ歯を外して清掃する) </div>
6	歯みがき時などに出血する。			<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> ◆唾液腺マッサージ ◆口腔ケア (粘膜ケアを行い、保湿剤利用も検討する) </div>
7	舌苔(舌の汚れ)が付着している。			
8	口臭がある。			
9	日中、口の渇きが気になる。			
10	歯の痛みがある。 (歯の痛みを訴える)			<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;"> ※歯科医療機関につなげる </div>

**※定期的な口腔管理
(歯科健診を推奨)**

◎かかりつけ歯科に定期的に口腔内の状態を見てもらえるように勧めていきましょう。

②また、日常的な口腔ケアや口腔機能向上体操など、何らかの援助を行っても症状が気になる(悪くなっていく)場合や、日常生活に不具合が生じる場合には、本人・家族と相談し、早めに歯科医に相談しましょう。

事例紹介①

- 最近は専門職である看護師さんからの依頼も増えています
- 胃ろうや重度の認知症、進行性の難病など、口腔ケアに難渋する症例が増えてきています
- お口を開けてもらえない方や剥離粘膜上皮（痰のようなもの）が付着しケアが難しい方も増えてきています

事例紹介②

- ケアマネさんからのご紹介
- 糖尿病の持病があり、口腔内の環境が悪くお食事の状態もあまりよくない状況でした
- 歯科衛生士の専門的な口腔衛生管理を継続して行ったことにより、食事摂取も安定し、血糖値の状態も安定されています



気軽に相談してください！！

- ・ 歯科医師 歯科衛生士が専門的な口腔衛生管理や口腔機能向上訓練を行います。
- ・ 口腔ケアは最期まで必要なケアです。
- ・ もしもお口から食べられなくなったとしたら、ますます必要なケアになります。